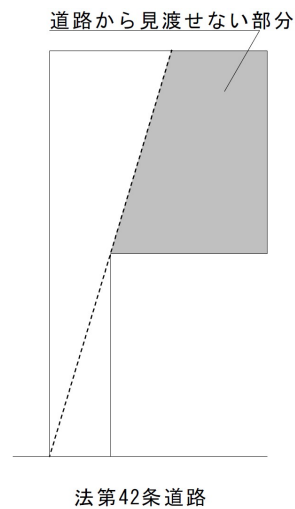


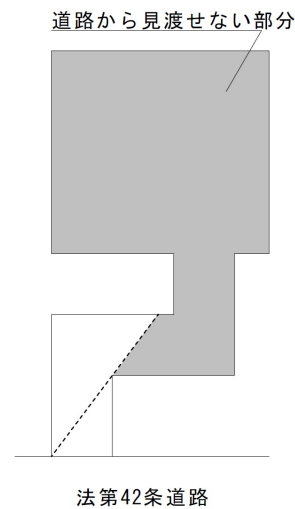
東京都建築安全条例（以下「安全条例」という。）第3条第1項及び同第10条第1項の規定による路地状敷地の取扱いを，以下のとおり定める。

1 路地状敷地（安全条例第3条第1項及び同第10条第1項）の定義について

- (1) 路地状敷地とは，その接する道路（建築基準法第42条の規定による道路をいう。以下同じ。）から見渡せない部分がある敷地をいう。【図1－A】【図1－B】

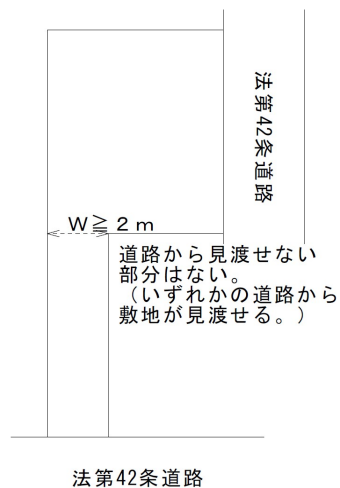


【図1－A】

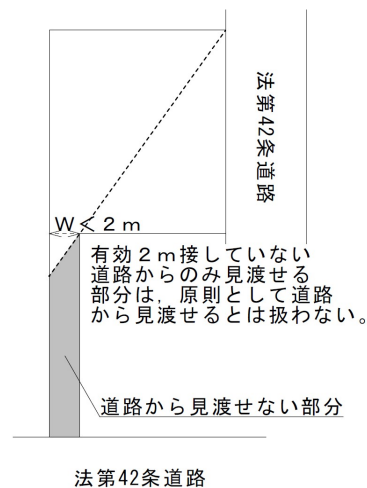


【図1－B】

- (2) 複数の道路に有効接道長2m以上で接する場合，接するいずれかの道路から敷地が見渡せなくても，別の接するいずれかの道路から敷地が見渡せる部分については，(1)の「道路から見渡せない部分」ではないと判断する。【図1－C】
なお，いずれかの道路の有効接道長が2m未満の場合，当該道路からのみ見渡せる部分は，原則として道路から見渡せるとは扱わない。【図1－D】



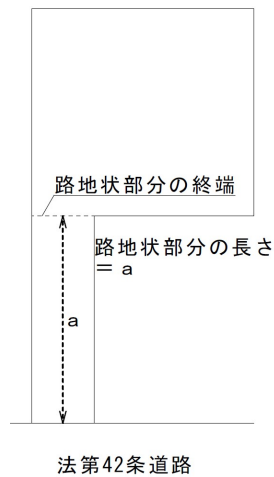
【図1－C】



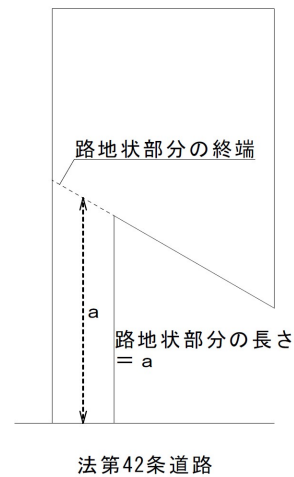
【図1－D】

2 敷地の路地状部分の長さ（安全条例第3条第1項及び同第10条第1項）について

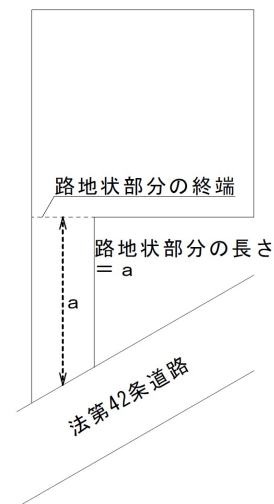
- (1) 路地状部分の範囲について，その始端を道路境界線としたとき，その終端は路地状部分を除く敷地全体を見渡すことができる線とする。【図2－A】【図2－B】【図2－C】【図2－D】
- (2) 路地状部分の長さは，その路地状部分の中心線の長さとする。【図2－A】【図2－B】【図2－C】【図2－D】



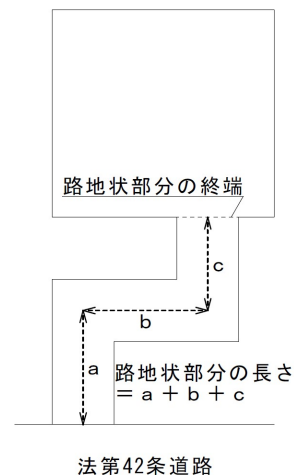
【図2－A】



【図2－B】



【図2－C】



【図2－D】

なお，1及び2の取扱いについて，判断に苦慮する場合は，計画を確認したうえで判断いたしますので，建築指導課へご相談ください。